

学生主催の「えんたくん」を用いたワークショップの開催

～学生・現任の臨床検査技師・教員がフラットに語り合う場を通して得た知見～

◎桑島大和¹⁾、村上ゆうな²⁾、中平ひより³⁾、稲垣凜々子²⁾、牧之瀬ひかり²⁾、門脇梓⁴⁾、宮崎隼⁵⁾、關谷 暁子⁶⁾
臨床検査技師学生団体 SOLS / 金沢大学 医薬保健学域 保健学類 検査技術科学専攻¹⁾、SOLS / 藤田医科大学 医療科学部 医療検査学科²⁾、SOLS / 群馬医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学専攻³⁾、SOLS / 静岡医療科学専門大学 医学検査学科⁴⁾、SOLS / 日本医療大学 保健医療学部 臨床検査学科⁵⁾、学校法人北陸大学⁶⁾

【はじめに】我々、Student Organization of biomedical Laboratory Scientist (以下 SOLS) は、第 61 回日臨技中部圏支部医学検査学会にて学生フォーラムの企画・運営を行なった。そこでは学生・現任の臨床検査技師・養成校教員が集い、フラットに語り合うワークショップを開催した。今回は、そこでの成果と今後の可能性について、いくつかの知見を得たので報告する。

【方法】立場の異なる方々が対等に語り合うためのツールとして、円卓状ボード(えんたくん)を用いた。4～5人でグループを作り、対話中の気づきをそれに記載した。テーマは3つ設け、テーマ毎に学生・技師・教員がバランスよく入るようにチームを再編成した。参加者には、企画全体の満足度(5段階評価)、各テーマはどの程度有意義であったか、同様の企画にもう一度参加したいか、などのアンケート調査を行なった。

【結果】参加人数は、当日参加者を含め30名を超えた(事前申込み者22名、SOLSメンバー5名)。アンケートの有効回答数は22件であり、その内訳は、学生27.3%、技師

50.0%、教員22.7%であった。企画全体の満足度は4と5(高満足度)を選んだ方が、95.5%であった。各テーマがどの程度有意義であったかについては、それぞれ80～90%の方が非常に有意義であったと回答した。同様の企画にもう一度参加したいと答えた方は100%という結果であった。

【考察】アンケート結果から、企画の構成について概ね賞賛のコメントを得た。学生・技師・教員が一堂に会し、共通のテーマで語り合うという機会は珍しく、貴重な場を設けられたことが、好評に繋がったものと考えられる。本企画の継続や、全国学会での開催を望む声も複数見られ、今の臨床検査技師業界にとって需要の高いイベントであると考えられた。課題として、学生にとっては学会自体がイメージし難く、一步を踏み出しづらいことが挙げられた。この点に関しては、SOLSの取組み自体がその解決の一助となり得るものであり、継続して活動していくことが重要だと考えられた。

〔連絡先〕臨床検査技師学生団体 SOLS